

「名古屋商工会議所環境行動計画 2013～2015」について

1. 「環境行動計画」ならびに 2010-2012 年度の取り組み概要

(1) 環境行動計画のねらい

○本所では、会員数の大多数を占める中小・小規模企業が主体的に環境行動に取り組むことができるよう、事業活動に「環境」の要素を取り入れることで具体的な経済メリットを得て、「環境と経済の両立」を実感できる仕組みづくりを目標とした「名古屋商工会議所 環境行動計画」を 2009 年 12 月に策定した。

(2) 2010～2012 年度の取り組みのねらい

- 企業には、①「環境と経済の両立」への気づき、②省エネ、生物多様性への取り組み、環境に関する社内体制作りなどの具体的な環境行動、③評価・改善・普及のサイクルを好循環してもらうことをねらいとした。
- 上記のために本所は、「環境行動を促進するツールや機会の提供」、「取り組みのための学習機会の提供」、「相談機能の充実」の視点から、①省エネ啓発、②生物多様性への取り組み支援、③環境活動に関心の高い企業の交流・研鑽組織である「名商エコクラブ」の創設・運営、④環境をテーマに含めたメッセナゴヤの開催、⑤従業員及びその家族等の環境意識の向上につながる緑化事業や e c o 検定対策セミナーの開催等、幅広く会員企業の環境活動を支援した。
- 2010～2012 年度では、省エネをはじめとする「地球温暖化対策」と 2010 年に当地域で開催された C O P 10 の開催支援の観点から「生物多様性保全」につながる取り組みを重点テーマとした。
- なお、2012 年度には活動の評価を行い、2013 年度以降に向けて、より効果的な行動計画を策定することとした。

(3) 2010～2012 年度の総括

- 地球温暖化対策につながる取り組み
 - ①省エネセミナー・先進企業視察会の開催、②外部機関が行う無料省エネ診断の斡旋、③省エネを推進する企業同士の情報交換会の開催をはじめ、④東日本大震災に端を発した電力供給制約を踏まえて、経済活動に影響を与えない範囲での省エネに関する会員企業への呼びかけと事業者向け C O 2 チェックシートの本所ホームページ上での公開などを行った。
- 生物多様性保全につながる取り組み
 - ①支援実行委員会の一員として C O P 10 開催に対して最大限協力するとともに生物多様性に関する俳句を募集し、優秀作品を掲載した句集の発行、② C O P 10 成果継承の観点から全国の商工会議所に先駆けて中小企業向けの「事業活動と生物多様性ガイドブック」の作成とセミナーを通じた普及活動などを行った。

○名商エコクラブ

環境に関心がある企業の交流・研鑽組織として 2010 年 10 月に「名商エコクラブ」を創設し、現在約 140 社が登録している。環境に関連する勉強会・視察会や会員同士の交流会を開催し、これまでに延べ参加者数は約 900 名となっている。

○メッセナゴヤ

毎年開催するメッセナゴヤは、環境をテーマの一つに設定し、先端技術や最新商品の紹介に関する場の提供を通じて、企業同士の販路拡大や企業連携等を支援している。(来場者数約 5～6 万人/回)

○その他

環境ビジネス、プラスチックリサイクル、EMS (環境マネジメントシステム)、e c o 検定対策などのセミナー開催、会員企業合同の植栽・緑化活動への参画、容器包装リサイクル制度に関する申請窓口業務の請負などを行っている。

以上のように、環境行動を促進するための機会やツールの提供においては一定の成果が得られたものと考えている。

しかしながら、省エネや生物多様性保全に関する会員企業への普及・啓発活動、「名商エコクラブ」の拡充については引き続き課題として認識している。

2. 2013～2015 年度における重点的な取り組み

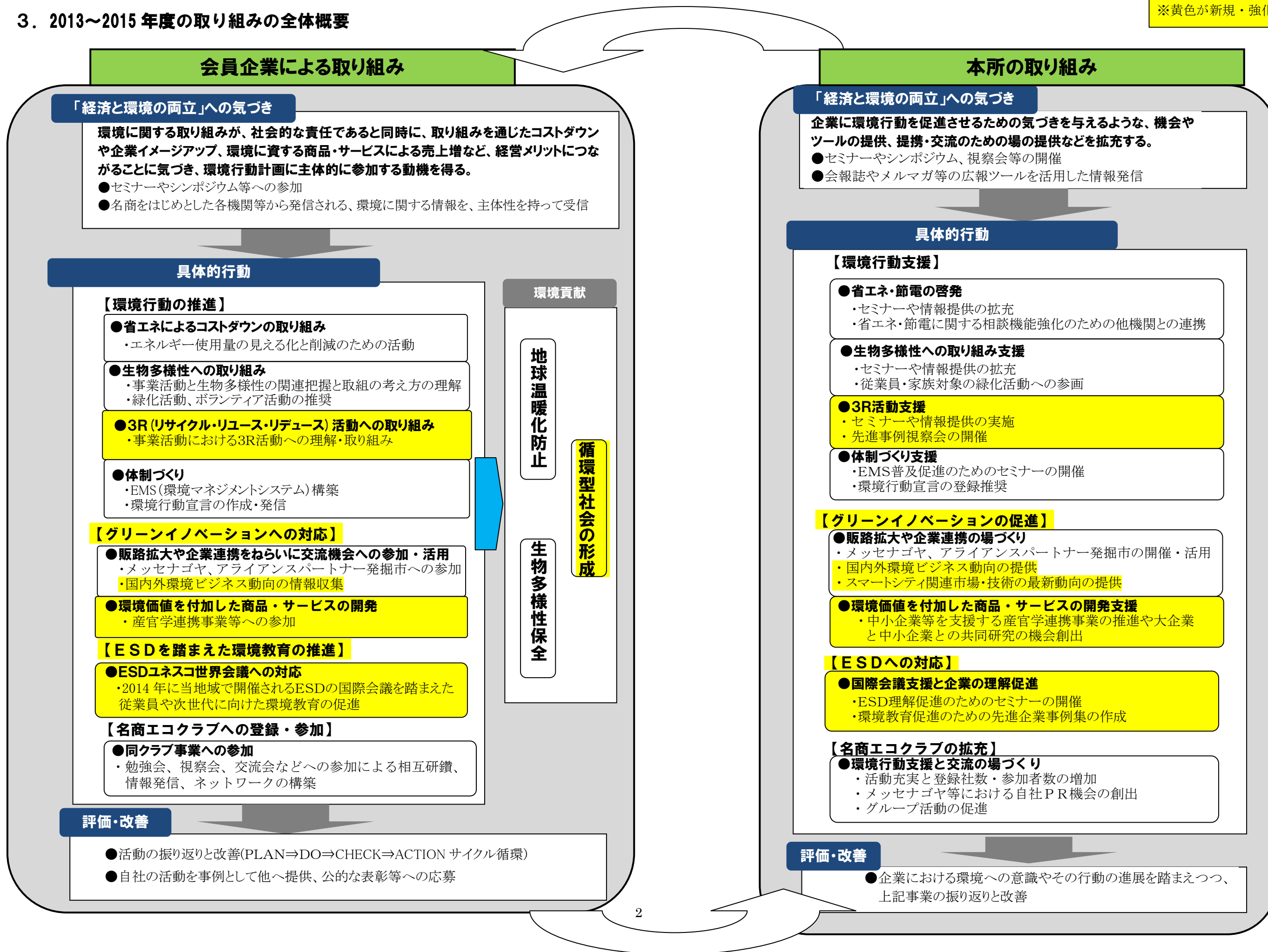
現在、企業を取り巻く環境関連事項として、地球温暖化対策に関するポスト京都議定書動向と国内の電力問題(原発比率の低下による C O 2 排出増)、廃棄物削減・3 R といった資源循環への取り組み、生物多様性に関する愛知目標や名古屋議定書への対応、2014 年に愛知県で開催される E S D^{*}に関するユネスコ世界会議への対応、また、産官学連携によるグリーンイノベーションの推進等がある。

これらを踏まえて、これまでの「地球温暖化対策」、「生物多様性の保全」につながる取り組みに加えて、「資源循環型社会の形成」につながる取り組みを強化することとし、「グリーンイノベーションの促進」、「E S D^{*}に関するユネスコ世界会議への対応」などの新たな視点も取り入れていく。

※E S Dとは、環境をはじめ持続可能な社会を創造するための教育。Education for Sustainable Development の略

以 上

3. 2013～2015 年度の取り組みの全体概要



4.各取り組みの内容

	テーマ名	本所として会員企業に対する活動計画
環境行動支援	省エネ・節電の啓発	<p>○セミナーや情報提供の拡充</p> <p>地球温暖化問題、コスト削減等の観点から、会員企業の省エネへの自主的な取り組みを促進するために、「省エネ対策セミナー」、「国・愛知県・名古屋市の省エネ支援施策セミナー」を毎年度開催する。また、ポスト京都議定書への対応など温暖化対策をめぐる世界の動きと我が国企業への影響についても最新動向を提供する。</p> <p>○省エネ・節電に関する相談機能強化のための他機関との連携</p> <p>財団法人省エネルギーセンターや愛知県・名古屋市等の他機関との連携により、省エネ・節電無料診断の斡旋等各種相談機能を強化する。</p>
	生物多様性への取り組み支援	<p>○セミナーや情報提供の拡充</p> <p>COP10を契機として、企業の生物多様性の取り組みに期待が寄せられている。しかしながら、特に中小企業については、事業活動との関わりを把握することが難しく、業種によっては自社メリットが見えにくいいため、普及が進んでいないのが実情である。このような中、企業における生物多様性への取り組みを促進させるために、最新動向の提供、先進事例の紹介、本年3月に作成した生物多様性ガイドブックの紹介などを通じて、普及活動を地道に行っていく。</p> <p>○従業員・家族対象の緑化活動への参画</p> <p>緑化活動は企業が取り組む生物多様性保全活動の一つとして位置づけられるとともに、従業員及びその家族の環境意識啓発を図ることができる。そのため、名商エコクラブを中心として、東山植物園花植栽イベントや東山における伐採活動、海上の森、藤前干潟の保護等に参画する。</p>
	3R活動支援	<p>○セミナーや情報提供の拡充</p> <p>会員企業の3R活動(リサイクル・リユース・リデュース)を支援するため、関係法令の周知、プラスチックをはじめとするリサイクル市場動向、コストダウンにつなげるためのマテリアルフローコスト会計(製造プロセスにおける資源やエネルギーのロスに対して投入した材料費、加工費等を把握し、コスト評価する手法)などのセミナー、先進企業やリサイクル施設の視察会を開催していく。</p>
	体制づくり支援	<p>○環境マネジメントシステム(EMS)の普及促進のためのセミナーの開催</p> <p>EMSを運用することで、省エネ・省資源によるコスト削減、法令順守のための管理体制の確立、グリーン調達への対応、従業員への環境意識啓発を図るとともに、PDCAサイクルによって継続的に活動を改善できる。そのため、本所としてエコアクション21をはじめEMS普及のためのセミナーを開催していく。</p> <p>○環境行動宣言の登録推奨</p> <p>環境行動宣言は、自社方針や取り組みを具体的に宣言することで実効性が高められる。同時に宣言をお客さまの目に触れるようにすることで企業イメージのアップを図ることができる。名商エコクラブへの登録の際に環境行動宣言を登録いただくことになっており、エコクラブへの登録者数を増やし、宣言社数の増加につなげていく。</p>
グリーンイノベーションの促進	販路拡大や企業連携の場づくり	<p>○メッセナゴヤ、アライアンスパートナー発掘市の開催・活用</p> <p>環境を継続テーマとしつつ、先端技術や最新商品の紹介に関する場の提供を通じて、販路拡大や企業連携等を一層支援していく。</p> <p>○国内外環境ビジネス動向の提供</p> <p>経済発展に伴い、市場が拡大するアジアをはじめ国内外の環境ビジネス動向について提供する。</p> <p>○スマートシティ関連市場・技術の最新情報の提供</p> <p>本所の中期計画に掲げられているスマートハウス・スマートシティなどの最新動向に関するセミナーを開催していく。</p>
	環境価値を付加した商品・サービスの開発支援	<p>○中小企業等を支援する産官学連携事業の推進、大企業と中小企業との共同研究の機会創出</p> <p>環境・エネルギー分野における大学(名古屋大学等)の研究シーズと企業ニーズとのマッチング事業を実施する。また、大企業の研究開発ニーズと中小企業の研究開発シーズをマッチングするような機会を創出していく。</p>
ESDへの対応	国際会議支援と企業の理解促進	<p>○ESD理解促進のためのセミナーの開催</p> <p>2014年秋に愛知県で開催されるESDユネスコ世界会議は、環境意識啓発を図るきっかけの一つになりうる。そのため同会議内容の理解促進ならびに環境教育(次世代・従業員等)の推進をテーマとするセミナーを1年前や同会議開催に合わせて開催する。</p> <p>○環境教育促進のための先進企業事例集の作成</p> <p>従業員・顧客(次世代含む)の環境意識啓発のねらいから、環境教育に関する先進企業事例集を制作し、普及に努める。(環境委員会に専門部会を設置し、検討)</p>
名商エコクラブの拡充	環境行動支援と交流の場づくり	<p>環境に関し前向きに取り組んでいる、もしくは取り組もうとしている企業にとって、「環境」をキーワードに先進事例・最新情報の共有の機会、会員同士の交流を通じて、相互研鑽、ビジネスへの示唆を得る場、さらには自社の製品・サービスをPRできる場として、同クラブをより一層拡充していく。</p> <p>○活動充実と登録社数・参加者数の増加</p> <p>低炭素化、循環型社会形成、生物多様性保全に資する観点から、事業拡充とともに各種PRに努め、会員増強ならびに事業への参加者数の増加を図る。(現在約140社)</p> <p>○メッセナゴヤ等における自社PR機会の創出</p> <p>エコクラブ会員同士だけでなく、メッセナゴヤ等を活用して、外部への自社PR機会を創出していく。</p> <p>○グループ活動の促進</p> <p>本年度の省エネ実践グループ設置に続き、2013年度に生物多様性グループを新規設置する。(生物多様性グループは、先進企業の視察会や緑化活動への参画、生物多様性ガイドブックを読む会などの事業を実施していく。)</p>

※黄色が新規・強化項目